

(別添)

糸島医師会病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年9月 策定

【糸島医師会病院の基本情報】

医療機関名：糸島医師会病院

開設主体：一般社団法人 糸島医師会

所在地：糸島市浦志532-1

許可病床数：150床

（病床の種別）一般病床150床

（病床機能別）急性期病床136床、慢性期病床14床

稼働病床数：150床

（病床の種別）一般病床150床

（病床機能別）急性期病床136床、慢性期病床14床

診療科目：消化器外科、乳腺外科、消化器内科、循環器内科、血液内科、肝臓内科、呼吸器内科、糖尿病内科、脳血管内科、神経内科、放射線科、緩和ケア科、肛門外科、内視鏡外科、リハビリテーション科

職員数：

- ・ 医師18名
- ・ 看護職員143名
- ・ 専門職47名
- ・ 事務職員31名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○人口

- ・福岡市
2015年人口1,539千人（65歳以上が20.7%）
2025年予測1,509千人（65歳以上が26.2%）
- ・糸島市
2015年人口96千人（65歳以上が26.9%）
2025年予測93千人（65歳以上が33.0%）
- ・全国平均65歳以上比率
2015年26.6%、2025年予測30.3%

※福岡市、糸島市ともに人口の減少は緩やかである。

高齢化の進展は全国平均同様に大きい、福岡市の高齢者比率は全国平均に比べて低い。
糸島市の高齢者比率の2015年は全国平均と差異が少ないが、2025年は全国平均よりも高く高齢化の進展が早いと予想されている。

○医療資源（2016年10月JMAP）

- ・福岡・糸島二次医療圏
人口10万人あたり病院一般病床数797床（全国平均696床）
人口10万人あたり医師数322人（全国平均245人）
※二次医療圏に関しては現状全国平均を大きく上回っている。
- ・糸島市
人口10万人あたり病院一般病床数292床（全国平均696床）
人口10万人あたり医師数175人（全国平均245人）

※糸島市は病院一般病床が全国平均を大きく下回っており、医師数も下回っている。

○病床機能ごとの必要病床数と現状

- ・福岡・糸島二次医療圏
高度急性期及び慢性期は充足している。急性期が不足。回復期が大幅に不足している。
- ・糸島市
病院病床は高度急性期0床、急性期209床、回復期43床、慢性期250床となっている。

○自己完結率

- ・福岡・糸島二次医療圏
高度急性期、急性期、回復期ともに90%超で高い。慢性期は80%超である。
- ・糸島市
救急自動車対応患者の搬送先の3分の2が福岡市内であり糸島市内での自己完結率は低いと考えられる。小児科、婦人科、耳鼻科等の病床がないことも要因になっている。

② 構想区域の課題

- ・福岡・糸島二次医療圏
人口減少が緩やかで高齢化の進展も全国平均に比べると緩やかである。
医療資源も全国的平均と比べて充実しており、病床に関しては高度急性期と慢性期から急性期、特に回復期への移行が必要と考えられる。
- ・糸島市
人口減少は緩やかであるが高齢化の進展が急速に進む。
病院の病床及び医師の更なる充実が必要と考える。

③ 自施設の現状

- ・糸島市の中核病院で、市民病院的な期待を受けている。
- ・紹介率が80%前後、逆紹介率が100%超と地域連携が非常に密である。
- ・糸島市内ではここ数年で2施設が病院から診療所へと移行し、当院の急性期入院の希望がさらに増加している。
- ・平均在院日数は全体で16.1日、急性期病棟は11.6日で全体の病床稼働率は85%前後であるが、満床となる日も増加してきている。
- ・現在、職員については職種により若干の不足が生じている。
- ・急性期を中心としており、14床は緩和ケア病床である。

④ 自施設の課題

- ・糸島市から福岡市への救急搬送が多く糸島市の自己完結率は低いと考えられる。
- ・糸島市は10万人あたりの病院病床数が全国平均と比べて半分以上で、医師数も少ない。
中核病院である当院の特に急性期病床の増床が必要と考える。
- ・診療科についても地域で不足している科の新設が必要であるが、現在の病床数では限界がある。
- ・建物の老朽化、各種スペース確保の問題から、病院敷地、病院建物の建て直しを検討する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 必要な診療科の増設を含めて、糸島市の急患等に対応すべく急性期医療の提供体制を維持、向上させていく。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現時点では特になし。

③ その他見直すべき点

- ・ 現時点では特になし。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	136		136
回復期			
慢性期	14		14
(合計)	150		150

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度		○今後の病床のあり方について検討	<div>集中的な検討を促進 2年間程度で</div> <div>第7期 介護保険 事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2018年度		○病床のあり方について検討	
2019～2020 年度		○病床のあり方について検討 ○病院建物建て直しを検討	
2021～2023 年度		○病院建物建て直しと病床のあり方について決定。	<div>第8期 介護保険 事業計画</div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：
- ・ 手術室稼働率：
- ・ 紹介率：
- ・ 逆紹介率

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)